

東京から川西町に移り住み、同町で現在行われているクラシック音楽に絡む活動のきっかけをつくった、フルート職人麻里左貴磨(まり・さきま)さんの十三回忌をしのぶ「東京バロックアンサンブルコンサート」が二十七日、町内で開かれた。

麻里さんは東京都国立市の楽器メーカーで修業した後に独立、同市でフルートの製造や修理などを行っていた。しかし体調を崩したため一九八一年(昭和五十六)年、自然環境豊かな川西町玉庭に療養のため移住。九六年四月に六十一歳で永眠した。

麻里さんとの縁で著名

川西にクラシック活動の土壌つくる

移住のフルート職人・故麻里さん十三回忌

な演奏家が町を訪れ、コ
ンサートに同行した演奏
家。この日は、玉庭小学
校でミニコンサート、川
鎖が生まれた。人々のつ
のロビーで追悼コンサ
ートがそれぞれ開かれた。
同プラザには町内外から
八十人が来場。麻里さん

しのぶ演奏会 音色のびやか

海上文化財団理事で、東
京バロックアンサンブル
後フルート、オーボエ、
代表岡村孝二さんの提案
を受けて開催。麻里さん
が作った銀のフルートを
音大生時代から愛用して
いる岡村さんは「人のつ
なから学んだ。川西町の
聞き入っていた。



麻里左貴磨さんをしてのんで行われた追悼コンサート
＝川西町フレンドリープラザ